

禁ぜられ、人を殺したものは殺される制度の下に在りながら、蒙古人は漢・南人を殺しても殺されずに済み、服飾の制限に至るまで漢・南人には嚴重に區別せられたといふやうな有様で、すべて彼等にとつては誠に味氣なき世の中であつたのである。討ち従へたものと従へられたものとの間における位置の相違は止むを得ぬことゝはいへ、その懸隔するところ餘りに甚しいといはねばならぬ。

遼金の對漢族態度

しかしながらかゝる光景は必ずしも元の漢土統一においてのみ獨り認められることではなく、假りに遼・金をして漢土一統の大業を成就せしめたとしても、殆んど同様であつたかも知れない。遼・金の燕薊地方或は淮北地方の經營の跡を見れば、これに類した有様の演出されたことは明らかに認め得られる。

たゞその統治がこれ等漢土の一部の地に限られ、そうして漢族のこれに對抗する勢力が爾餘の廣い地方に存したので、かゝる政治や社會の現はれたのを、元代特有のこととして認めしむるに外ならぬのであるかも知れない。

要するにかゝる有様は、すべてなほこれ等の種族の國家意識の幼稚であつたことに基く現象として認めなければならぬ。かくの如く蒙古族の支那における政治や社會組織は必ずしも獨特のものであつたとは考へ得られないが、たゞその漢文化に對する態度に至つては、從來の北族のそれとは甚しい相違があつたことを認めなければならぬ。

元と漢文化